



公益財団法人 友愛

2024 年度
事業報告

I はじめに

（設立）

一般財団法人友愛は、昭和 28 年（1953 年）に結成された友愛青年同志会を母体とし、昭和 34 年（1959 年）に財団法人日本友愛青年協会（所管文部省）として設立された。平成 23 年（2011 年）4 月に一般財団法人へ組織変更し、また日本友愛協会と名称を変更して公益事業を継続。平成 29 年（2017 年）12 月 22 日付で、名称を一般財団法人友愛に変更した。そして、平成 31 年（2019 年）3 月 28 日公益財団法人として認定される。

（目的）

この法人は、自立と共生の友愛の理念の下に、国内外の青年や社会人の交流を深め、友愛の理念を次世代に継承、発展させる人材を育成し、もって世界平和に資することを目的とする。（定款より）

Ⅱ 概 況

総 括

2024 年度の事業実施は、多様性に富んでいたといえる。

姉妹団体 OEJAB から、数年ぶりに 12 名の派遣員が来日し、広島訪問・京都見学など平和・文化について学ぶ機会を得た。また、年々数を増す OEJAB への派遣員募集にあたっては、初めて第二次選考として面接による選考が取り入れられた。選考委員各位の、多大なご協力を得て男子 4 名、女子 2 名の派遣員が選ばれ、3 月には OEJAB を訪問した。6 名が異口同音に「貴重な経験であった」、「新たな仲間が増えて嬉しい」と報告書に綴っている。彼らが新たな友愛ユニオンのメンバーとして活躍してくれると確信している。

こうした報告書を読むと、この事業の意義を強く感じ、正に友愛精神の種蒔きは着実に行われていると実感できる。

国情不安定なミャンマーからは、研究生が来日し、堆肥づくりパンフレットの監修にあたってくれた。藤井名誉教授（東京農工大学）のご尽力もあり、現地に適応できる堆肥づくりを、解りやすいリーフレットにして配布する計画は、地道に確実に前進している。

「友愛小論文コンテスト」は、新たな展開を示し、韓国／全州大学校で、そして国内においても千代田国際語学院の協力を得て、初の事業が実現できた。また、中国に於いての再開を目指していたが、中華全国青年連合・中国国際青年交流中心のお力添えもあり、次年度には中央民族大学で実施されることとなった。

これらの多彩な事業展開に於いて、大いに活躍したのが友愛ユニオンのメンバーである。

韓国全州大学校でプログラムの一つ「テーブルディスカッション」が開催されたが、全州大学校の学生と、友愛ユニオンメンバーがテーブルを囲み、まるで既知の友人の様に楽し気に話し合いをしている様子は、見ていて胸が熱くなった。同時に友愛理念を以て国を超えて人と人が接するとき、そこには未来と希望が生まれ、争いや諍いは無縁であると確信した。

OEJAB の派遣員が来日したおり、積極的に名乗りを上げてアテンドしてくれたのも友愛ユニオンメンバーである。東京・広島・京都と各人が参加できるところでアテンドを引き受けてくれ、時間をやりくりして参加してくれた。旅のしおり（英語版）も、自ら編集・作成して配布した。同年代の若者同士の交流としても非常に意義のある時間であったと思う。

そしてこのような友愛ユニオンメンバーの活動を、指導し支え、活発なものにしていくため、理事各位が尽力してくださっていることも、付け加えたい。

この友愛ユニオンメンバーによるアテンドには後日談があり、3月に「友愛」からの派遣員がウィーン/OEJAB を訪問した折には、前年8月に来日した OEJAB の若者たちが、「友愛」の派遣員をアテンドしてくださったという。これこそ生きた国際交流の実践であり、確実に友愛理念が伝播されていることを物語っている。

公益財団法人友愛の活動は、規模は細やかな事業の連続である。しかし、定款に謳っている「国内外の青年や社会人の交流を深め友愛の理念を次世代に継承、発展させる人材を育成し、国際相互理解を深めもって世界平和に資することを目的とする」という目的を、着実に果たしていると思える。

これからも掲げた目的を实践すべく、友愛理念の普及・若者の育成に力を注いで行きたい。

Ⅲ 公益事業実施報告

1、国際交流事業

（定款 第 4 条 第 1 項 第(1)号に基づく事業）

(1) OEJAB 派遣事業

事業概要

国際相互理解促進のための交流を実践する事業である。人材育成及び支援事業として友愛派遣員等の交流を通じて、相互理解、相互尊重、相互扶助を両国の若者が実践する機会を与える。具体的には、永年協力関係にあり、協力協定を結んでいるエヤップ（OEJAB／オーストリア勤労青年連盟）と協力し相互交流の機会を設ける。＊文中敬称略

事業実施

① 2024 年度派遣員募集

▶ポスター郵送 2024 年 5 月 1 日（水）
全国国公立大学及び都内近郊私立大学 47 校へ
掲示等による学生への周知を依頼

▶一次選考(書類選考)応募締め切り
2024 年 9 月 23 日（月・祝）

② 選考委員会選考

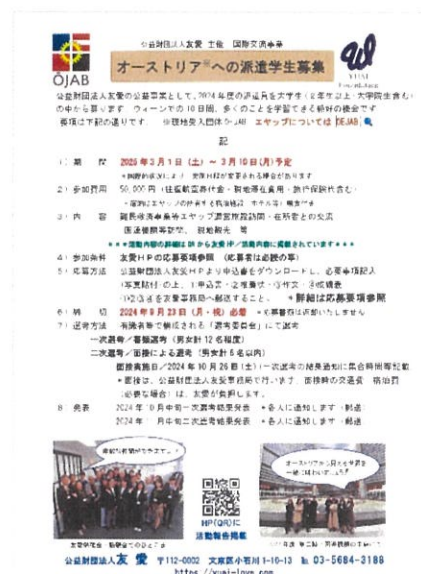
▶応募者人数 71 名（女子 51 名・男子 20 名）

▶提出書類【申込書（写真貼付）、教授の推薦状（書式自由）、参加希望動機・自己紹介文（書式自由、1200 字以内）、成績表】

▶一次選考(書類選考)／12 名程度

▶二次選考(面接による選考)／男女計 6 名以内

上記提出書類及び面接を以って、選考委員が採点し協議の上で、下記のとおり選考委員会を開催。下記記載の 6 名（2024 年度は男 4 名、女 2 名）を派遣員候補として理事会に諮問した。



ポスター

選考委員会概要・面接・最終選考会議

男子 5 名・女子 7 名（内 1 名事情により辞退）を事前連絡の時間割りにて面接

日 時： 2024 年 10 月 26 日（土）面接 9：00～17：00

選考会議 17：00～19：00

場 所： 友愛サロン・（Web オンライン併用）

出席者： 谷藤悦史 早稲田大学名誉教授

戸澤英典 東北大学教授

(Web) 星田 寛 公益財団法人 公益法人協会 相談員

(Web) 初瀬智彦 日本橋総合登記事務所 司法書士

(Web) 田中佐知子 仁平総合法律事務所 弁護士

(Web) 田中正基 京都府立洛水高等学校教諭

(Web) 河口ハルトマンミヒャエラ 公益財団法人友愛 顧問

西川伸起 理事 OEJAB 受入・派遣事業担当

攪上哲夫 理事 小論文コンテスト事業担当

井田安信 理事 ミャンマー農業指導者育成事業担当

後藤大智 理事 友愛ユニオンメンバー

羽中田元美 事務局長

選考委員会選考結果（50 音順）

（学年：応募時）

岩岡 優太	千葉大学 医学部	5 年	男性
尾田 夏野	京都大学 総合人間学部	3 年	女性
木島 優美	東京科学大学 医学部	6 年	女性
佐々木 太一	北海道大学大学院 共同資源工学修士	2 年	男性
須黒 正也	筑波大学 人文・文化学群	4 年	男性
坪山 倫	東京大学 文学部	4 年	男性

上記 6 名を選考結果として理事会に報告することが面接終了後の選考委員会で承認された。

③ 理事会決定

選考委員会の報告を受け、第 37 回 理事会（2024 年 11 月 7 日）において、選考委員会より報告の 6 名を 2024 年度の派遣員として決定した。

④ 結果通知

▶派遣人数 6 名 【男子学生 4 名，女子学生 2 名】

2024 年 11 月 11 日付で選考結果を各位に郵送した。

- ◆応募者本人 全員【結果通知・友愛活動への誘い・記念品／USB】
- ◆推薦教授・教諭 全員【結果通知及び協力への御礼・記念品／USB】

⑤ 派遣前 事前研修会

2025 年 3 月の派遣に向け事前研修会を開催した。

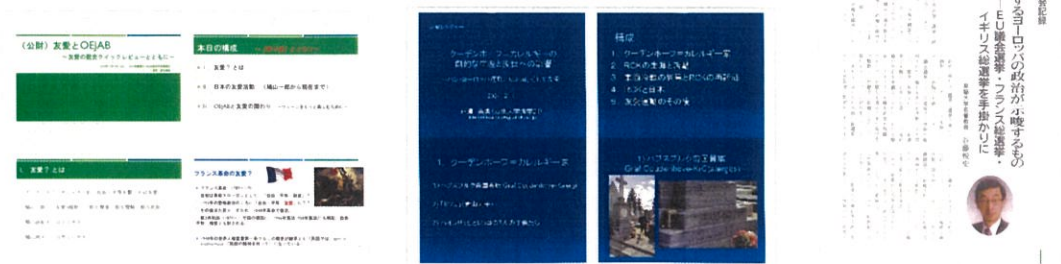
第 1 部：友愛の歴史 OEJAB と友愛・ヨーロッパにおける友愛の歴史

2024 年 12 月 14 日（土）10:00～12:00

於：友愛サロン

▶講師

- ・西川伸起（公益財団法人友愛 理事 OEJAB 受入・派遣事業担当）
「友愛とOEJAB」
- ・戸澤英典 東北大学教授（公益財団法人友愛 評議員）
「クーデンホーフ＝カレルギーの劇的な生涯と後世への影響」
- ・谷藤悦史 早稲田大学名誉教授（公益財団法人友愛 理事）
「変化するヨーロッパの政治が示唆するもの」



▶参加者

- ・井田安信（理事 ミャンマー農業指導者育成事業担当）
- ・攪上哲夫（理事 小論文コンテスト事業担当）
- ・後藤大智（理事 2019 年度友愛派遣員）
- ・藤田脩椰（2022 年度友愛派遣員）



第 2 部：鳩山会館見学

2024 年 12 月 14 日（土） 13:30～14:30

引率者：井田安信 理事

攪上哲夫 理事

⑥ 派遣実施

2025 年 3 月 1 日（土）～3 月 10 日（月）

3 月 1 日（土）、羽田から 2024 年度 O E J A B 派遣員 6 名が、ウィーンに向けて出発した。

一行は、事前に空港内会議室に集合し、出発前最後の研修を受け、二人の理事に見送られての出発となった。

今回の派遣員には、難民施設訪問、CTBTO 訪問、連邦首相府見学など、充実のスケジュールが予定された。

3 月 10 日（月）に帰国。現地での体験を写真と文章で綴る「報告書」が 4 月には提出される。



2025 年 3 月 1 日～3 月 10 日（計 6 名）【年齢は応募時】

派遣員

木島 優美	（2024 年度派遣員）	24 歳女性
尾田 夏野	（2024 年度派遣員）	21 歳女性
須黒 正也	（2024 年度派遣員）	23 歳男性
坪山 倫	（2024 年度派遣員）	23 歳男性
佐々木 太一	（2024 年度派遣員）	23 歳男性
岩岡 優太	（2024 年度派遣員）	22 歳男性

(2) OEJAB 受入事業

事業概要

国際交流事業の一つとして実施している本事業は、姉妹団体提携をしている OEJAB の推薦する若者を受入、日本についての理解を深め、平和への思いを両国の若者が共通認識できる機会を提供すべく実施されている。

事業実施にあたって OEJAB との話し合いを進めるなかで、年間 6 名の学生を広く募り、日本へ派遣する方向で進めて行くこととなった。しかし、年間 6 名の派遣を毎年実施することは、OEJAB にとって負担が大きく、2 年毎に 12 名を派遣したいとの申し入れがあり、理事会での承認を受け、2 年毎 12 名の派遣員を受け入れる事業として実施することとなった。

事業実施

- ① 2023 年度は準備期間とし、実際に来日が実施されたのは、2024 年度 8 月 20 日（火）～9 月 2 日（月）の 14 日間。
- ② 平和に関する学習・体験については、広島市松井一實市長のご協力を得て、平和祈念公園での献花、資料館の見学、及び松井市長からの平和への取り組みについてのお話を伺う機会を得ることができた。
- ③ 上記②のプログラムを中心に、スケジュールを設定し、OEJAB との連携をとりながら、その他のプログラムを作成した。
- ④ 来日する方の人数が 12 名と多いこともあり、国内での日本文化に触れるための見学、訪問に関しては、友愛ユニオンのメンバーから有志を募り、アテンドを担当すべく設定した。
- ⑤ 上記④にあるよう、来日した OEJAB 派遣員と、友愛ユニオンのメンバーが直接交流する機会を設け、次代を担う若者の国際交流の推進を図ることとする。

OEJAB 派遣員受入のスケジュールは、下記の通りである。

台風の影響が懸念される中、晴天に恵まれ充実のスケジュールを過ごした。しかし、京都から帰りの新幹線が運休になり、名古屋に戻り、翌日敦賀経由北陸新幹線での帰京となるなど、アクシデントに見舞われた。



公益財団法人友愛 2024 年度（令和 6 年度）事業報告

2024年OEJAB受入事業スケジュール 2024年8月20日（火）～9月1日（日）					
	場所	午前	午後	同行／アテンド	備考
8月20日（火）		到着OS51便 成田着8：50 トーマスさん	到着BR198便 成田着13：25	トーマスさん＝羽中田 残り一行＝藤田・三浦・井田	東横インホテルへ
8月21日（水）	東京	9：00集合「友愛」研修 & オリエンテーション 11：00移動／鳩山会館	昼食／鳩山会館にて 鳩山理事長講演 会館内見学⇒渋谷等散	藤田・三浦 井田・羽中田	西川・森崎／トーマスさんアテンド
8月22日（木）	東京	浅草寺 10：00pu	スカイツリー見学	藤田・三浦・ 井田・横上・羽中田	東横インホテルまで
8月23日（金）	東京	希望者は 東京都美術館・国立博物	自由時間（20：00まで）	藤田・三浦	東横インホテルまで
8月24日（土）	友愛 事務所	自由時間 ＊推奨：小石川後楽園	お茶席体験 14：00～ OEJABと友愛／西川理事 戸澤先生／田中先生	友愛ユニオン・藤田・手塚 西川・井田・横上・羽中田	東横イン 戸澤先生・田中さん
8月25日（日）	移動日	移動／広島へ 8：00pu	鯉城見学	藤田・小倉・手塚・出倉 後藤・西川・井田・羽中田	法華クラブ広島 082-248-3371 のぞみ65号 09：48発 13：42着
8月26日（月）	広島	宮島（厳島神社）	宮島及び広島市内の原爆 慰霊関係施設見学／赤十字 病院跡／袋町小学校	藤田・小倉・手塚・出倉 後藤・西川・井田・羽中田	法華クラブ広島
8月27日（火）	広島／ 京都	松井一實市長面談 10：00～10：30	京都へ移動 弁当セット ／ホテル近くのスーパー で購入	藤田・小倉・出倉・田島 後藤・西川・井田・羽中田	宇治第一ホテル 0774-20-3333 のぞみ自由席 西川＝東京 手塚＝浜松
8月28日（水）	京都	宇治平等院 8：00出発 9：10内部拝観10：20発	伏見稲荷 11：30～14：00	藤田・小倉・出倉・田島 井田・田中・後藤・羽中田	宇治第一ホテル
8月29日（木）	京都 ／東京	市内見学（金閣寺） 四条河原町	のぞみ運休、夕食はコ ンビニ	藤田・小倉・出倉・田島 井田・田中・後藤・羽中田	名古屋のホテル のぞみ運休
8月30日（金）	東京	敦賀経由 北陸新幹線にて帰京	懇親会（夜）友愛理事 千羽鶴	鳩山理事長、谷藤理事、後 藤理事	東横イン 西川・小倉／トーマ スさん・ニック同行
8月31日（土）	東京	トーマスさん 帰国 OS52便 成田発11：10	自由時間	小倉・出倉	東横イン トーマスさん＝羽中田 07：00 ホテル ピックアップ
9月 1日（日）		スカイライナー131号 10：37上野⇒11：28第二	帰国BR197便 成田発14：25	小倉・出倉 西川・後藤・羽中田	09：00 ホテル ピックアップ



(3)ミャンマー農業発展支援・農業指導者育成事業

事業概要

貧困の解消は、世界平和の基盤であり、ミャンマーも例外ではない。経済基盤を農業に求めているミャンマーに向けて、農業発展支援・農業指導者の育成をするための事業である。派遣された研修生等に、ミャンマー農業発展に資する指導者としての必要な研修及び農業発展技術習得の情報を与え、その活動を支援するものである。

事業の目的として次の内容を挙げている。

ミャンマーの主たる産業が農業であることから、農業に関する知識、技術を日本の文化や考え方、生活に触れながら学ぶ機会を設けること。

研修後は自国において、日本で学んだことを伝え実践するよう努める。

研修を通して日本について理解してもらい、今後のミャンマーとの友好関係を緊密なものにする役割を担ってもらう。

同時に日本国内の若者に、アジアの他国の実情を知る機会ともなり、相互理解の推進につながる。

事業実施

2021年2月、ミャンマー国軍は全土に非常事態を宣言し国家の全権を掌握したと表明した。当事業実施において必要な、「人材の往来が安全で自由であること」の条件が満たされないまま今年度も終始した。しかし、一昨年度来取り組んできた「堆肥作りパンフレット」の作成に向けては、東京農工大学藤井名誉教授、南埜幸信理事（東京農工大学卒）のご協力を得て、具体的な方法、その為の人材の確保など、進捗がみられた。

1) 研修生招聘

今年度は、日本でミャンマーの農業に必要な堆肥や緑肥の勉強をしていただき、ミャンマーに帰ってそれを実践していただく研修生を実際に日本に招き、研修を行った。

来日研修生：プーさん（2024年6月5日～6月17日滞在）

2024年6月5日（水）来日

・第34回理事会出席

プーさんから招聘のお礼と挨拶、農業指導者育成事業にかける思いを語っていただいた。

・藤井名誉教授からは、ミャンマー農業の土地改善の必要性、リーフレット作成の方法やスケジュール感などをお話いただいた。

・リーフレットについては、プーさんの妹のメイさんにもお手伝いいただき、年

内に第 1 稿を作りたいことを事務局より報告した。

2024, Schedule for Myanmar Agricultural Support Programm (2024.3.2)							
day	date	week	action	visit	am	pm	stay at
1	2024.6.5	Wed	Myanmar to Japan	Yanong - Tokyo (Narita/Haneda)-Tsukuba		Japan Alleopathy Labortory	Tsukuba
2	2024.6.6	Thu	Discussion for Research	Fuchu city	Tsukuba to Fuchu (Tsukuba Express, JR)	Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT)	Fuchu
3	2024.6.7	Fri	Discussion for Research	Fuchu city	Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT)	Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT)	Tsukuba
4	2024.6.8	Sat	Visit Experimental Farm	Mito city	Tsukuba to Mito (by car/Fujii)	Koibuchi Collage of Agriculture and Nutrition	Tsukuba
5	2024.6.9	Sun	Sightseeing	Tokyo	free	Discuss with Miyamar people in Japan	Tsukuba
6	2024.6.10	Mon	Lecture on Agriculture	Kawasaki City (Ikuta Station)	Tsukuba to Ikuta Sta. (Mukougaoka Yuuen)	Meiji University, Faculty of Agriculture	Fukuyama
7	2024.6.11	Tue	Sustainable Agriculture	Fukuyama City	Western Region Agricultural Research Center, NARO	Fukuyama to Kouchi	Kochi
8	2024.6.12	Wed	NPO Hidaka Wanowa-kai	Hidaka Village	NPO Hidaka Wanowa-kai	Tomato and Mucuna farm	Narita
9	2024.6.13	Thu	Local Farm	Sousa City (Chiba Pref.)	Sato Farm	Sato Farm	Narita
10	2024.6.14	Fri	Narita City Tour			Fuchu	
11	2024.6.15	Sat				Fuchu	
12	2024.6.16	Sun				Fuchu	
13	2024.6.17	Mon	Back to Myanmar	Tokyo (Narita/Haneda) - Yangon			

2) 「堆肥作りパンフレット」「緑肥作りパンフレット」の作成
ミャンマー語に翻訳できたリーフレットのイメージ



※ 2025 年度は、パンフレット作成・配布の実施に向けて事業を進めていきたい。

3）進行打合せ会議開催（計 9 回）

① 2024 年 4 月 9 日 17 時～

・東京農工大学に留学していたミャンマーのイエジン農業大学の先生をしていたプーさんを研修生として迎えることとなった。Zoom 会議を行い、南埜理事と研修内容や訪問施設について打合せを行った。また、プーさんへのコーチをしていただく東京農工大学藤井名誉教授との役割分担について、意見交換を行った。

Web 会議出席者： 南埜理事，井田理事，羽中田事務局長

② 2024 年 4 月 15 日 17 時～

・ミャンマーの農業従事者向けのリーフレットについて、オーガニック野菜を作れる堆肥や緑肥の効用も含めて、絵の付いた分かりやすい小冊子を作ることによって一致した。

・日本には土壌医がおり、様々な土を鑑定してくれる。診断鑑定ができるキットがあるので、それらを使ってミャンマーで農業従事者に指導できれば良いと思われる。

・友愛ファームを核とし、拠点として扱って、ミャンマー各地の土地の診断と指導を行っていききたい。

・堆肥や緑肥の作り方についても、資料のベースにあるのは日本のものであり、ミャンマーではどうなのか確認することが重要である。

出席者： 藤井名誉教授，南埜理事，井田理事，羽中田事務局長

③ 2024 年 4 月 21 日 17 時～

・リーフレット作成の方向性について、ミヤットゥーさんと打合せを行った。

・リーフレットの内容や表現については、現地で実際に農業をしている人達の意見を多く含めて欲しいと要望があった。

・リーフレットの配布方法については、大使館を通じて配布することも良いと思うと意見があった。

出席者： ミヤットゥーさん，井田理事，羽中田事務局長

④ 2024 年 5 月 12 日 13 時～

・リーフレットの作成について、ミャンマーの現地にいる農業指導者育成事業の卒業生とプーさん、日本にいるミヤットゥーさんや藤井名誉教授を一堂に Zoom で繋ぎ、意見交換ならびに事業への協力を依頼した。主な議事については以下のとおり。

・ミャンマーの農家は、豊かな農家と貧しい農家に分かれている。貧しい農家は

多いので、リーフレットの必要性は高い。

- ・ミャンマーの農家の人は、豚の糞などが肥料になることは知っている。
 - ・ミャンマーでは、オーガニックと言うと皆が尻込みする。オーガニックが分かるようにするには時間がかかる。化学肥料を少なめにして、堆肥を作ってから土地に入れることを農業省も教えている。少しずつ堆肥も普及している。
 - ・堆肥や緑肥のリーフレットを作るのは、藤井名誉教授のアドバイスで作れる。しかし、リーフレットを配って成功するとは限らない。ミャンマーの人は、やって見せないと信用しない。そういうステップもあることを知って欲しい。
 - ・ミャンマーの農民を対象に、日本のボカシを実際にやってみた。玉ねぎを作って実際良くできた。3年続けて自分達がいなくなったら、農民もやらなくなった。農民は正直に本当に必要なことしかやらない。一緒にやってあげないと広まらない。緑肥を進めるのは本当に役に立たないと広まらない。
 - ・ミャンマーも地域ごとに土壌が違うので、ここはこんな肥料、こちらはこんな肥料ということが出てくると思う。
 - ・リーフレットの配布ルートは、肥料を造る会社に先輩がいるので聞いてみる。農業省とも繋がりがある。JICAも配布を手伝ってくれると言っている。
 - ・印刷は、ミャンマーで行ったほうが安くできると思う。ミャンマーでは、野菜のコンテストがある。各地で農民が集まる場所で教えるのも良いと思う。
 - ・効果的なやり方は、土地を借りて実際にそこでやって見せる。農民はそこに来て学んで帰る。農民にお金を配布できると集まりが良いと思う。リーフレットにクーポンを付けて質問ができる仕組みも良いと思う。
 - ・プロジェクトが終わっては困る。これをきっかけとして、ミャンマーで農業のリーダーを作っていきたい。リーフレットを第一歩として、そこから起こる現象を友愛さんにも拾って欲しい。
 - ・ミャンマーの現地でもプーさんとギディさん、ティンさんとが連絡を取り合っ
- て多くの方々の意見を取りまとめていただける様に依頼した。

出席者： ミヤットゥーさん、プーさん、ギディさん、ティンさん

藤井名誉教授、南埜理事、井田理事、羽中田事務局長

⑤ 2024年5月20日 17時～

- ・ミャンマーからの研修生プーさんの研修日程について、確認を行った。基本的には、藤井名誉教授が同行してプーさんへの指導を行い、藤井名誉教授が不在の場合は、南埜理事が同行指導を行うこととした。

出席者： 藤井名誉教授、井田理事、羽中田事務局長

⑥ 2024 年 6 月 9 日 11 時～15 時

- ・ミャンマーからの研修生プーさん、その妹のメイさん、ミヤットウーさん、藤井名誉教授や関係者が集まり、リーフレットの作成について議論した。
- ・プーさんより、ミャンマーの農業全体の現状について、PPT を用いて説明があった。
- ・ミャンマーの農民は、知っているけれど作らない、怠けている、楽に出来ることばかり考えると説明があり、実際に農民に堆肥を作り土壌改良を行わせるにはどうしたらよいか議論した。
- ・過去は日本も同じであり、化学肥料を使うようになり、オーガニックに移行していった。成果物を評価してあげて、販売できるルートがあることが大切。
- ・肥料について、水田 ver、畑作 ver、果樹 ver に分けて考えるとよい。また、リーフレットは土地を持っている人に配布する。未熟堆肥は害になるので、発酵文化のないミャンマーの農民に良く分かるように説明する必要がある。
- ・ミャンマーにある材料をヒアリングし、まずは日本語で作成し、その後ミャンマー語に変換する方向で作成することとなった。

出席者： プーさん、メイさん、ミヤットウーさん、中田英志さん、
藤井名誉教授、南埜理事、井田理事、羽中田事務局長



⑦ 2024 年 6 月 14 日 12 時

- ・研修生プーさんより、研修終了の報告を受けた。
- ・プーさんに「サンドイッチ法」という方法で、堆肥の完熟度合いを評価するための資材を提供した。未熟な堆肥の施用は逆効果なので、測定することでミャンマーの農家に貢献する。英文で書いたプロトコルを添付した。
- ・野菜栽培の専門家の元木教授の研究室を訪問しアスパラガス、ブロッコリーの最先端栽培法を見学した。収量が 5 倍以上に増える方法でミャンマーでも役に立つと思われる。
- ・その後 6 月 17 日にプーさんは帰国した。

出席者： プーさん、藤井名誉教授、井田理事、羽中田事務局長



明治大学で、ミャンマーの農業と、問題雑草について講義するプーさん



高知県の非営利法人日高わのわ会で。ブドウ園でハーブと八升豆の栽培を見学し、吉岡さんから自然農法を勉強しました



鯉淵学園平澤先生、南埜理事より、有機農法に関する研究を教授いただきました

⑧ 2024 年 10 月 17 日 15 時～17 時

・プーさんから発表のあったミャンマー農業全体のレポートを受けて、7 月 7 日に南埜理事より、ミャンマー向けの土壌改良と堆肥についてのリーフレット原稿の提出があった。

・9 月 23 日、同じく藤井名誉教授より、ミャンマーの一般農家向けを念頭に東南アジアで栽培可能な緑肥のリーフレットについて提出があった。

・メイさんに事務所に来ていただき、リーフレットをミャンマー語に訳していただく依頼をした。ミャンマー語への変換については、プーさんと連携し、イラストもオリジナルのものを作成いただくようお願いした。

・出来上がったリーフレットについては、表現や言い回しについて、ミャンマーの研修員にも伺って実際に役立つものを作成する。また、JICA の担当者にも見せて意見を伺う。

・堆肥だけでなく緑肥についても有効と思われるので検討をしていくこととなった。

出席者：メイさん、井田理事、羽中田事務局長

⑨ 2025 年 3 月 16 日 13 時～15 時

・2 月 27 日にミャンマー語に訳してイラストも独自のものを書いた原稿が出来上がった。ミヤットゥーさんからミャンマーの現地にいる研修員に送って、様々な希望や意見を伺った。

・現地の研修員より、ミャンマーの度量衡の単位の問題、農民独自の言葉使い、指を使う測り方などの報告があり、メイさんやプーさんが修正をすることとなった。修正後に JICA の担当者にも見せて意見を伺うこととした。

出席者：メイさん、ミヤットゥーさん、井田理事、羽中田事務局長

2、表彰事業

（定款 第 4 条 第 1 項 第(2)号に基づく事業）

(1)小論文コンテスト事業

事業概要

イギリスの哲学者「フランシス・ベーコン」が「友愛の理念を以て、全人類の融和を」と説いたように、友愛理念の啓発は次世代を担う若者にこそ必要で、世界の平和に資する若者の育成は、必要欠くべからざる事柄である。世界の融和を求めるとき、隔たりとなる要因の一つに言語があり、世界でも特殊な言語である日本語を理解できる人材の育成は、友愛理念の啓発に重要な要素といえる。中国国内にある諸大学の協力を得て友愛についてのレクチャー（講演・ビデオ等）を行い、参加学生より小論文を日本語で募り、優秀作品を表彰する。

事業実施

現在、本事業の出発点となった、中国国内の大学での実施が中断していることから、運営委員会、理事会での協議を重ね、本事業の具体的な実施に於いては中国に限らず、韓国、日本国内に目を向け、実施可能な進路を得た上で本事業を推進して行くことが望ましいとの結論を得た。

中国に於ける実施については、引き続き中国国際青年交流中心との交流を重ね、中心を窓口に、実施可能な方法を模索し、検討する。

結果本年度は、韓国・全州大学校及び日本国内・千代田国際語学院に於いて、本事業を実施することができた。

また、中国に於いては、2025 年度事業として実施の希望校（中央民族大学）があり、本年度に打合せ・視察を実施した。

1）韓国／全州大学校における事業実施

—— 経緯 ——

① 2023 年 12 月 21 日（木）15 時 30 分～16 時 15 分 ノボテルアンバサダーソウルにおいて、全州大学校教授 Gunki Bae（ペーコンギ）氏、鳩山由紀夫理事長、芳賀大輔理事、攪上哲夫理事、文炳吉鳩山事務所顧問／通訳：申富浩東アジア共同体研究所特別顧問の 6 名出席のもと、「小論文コンテスト」実施に向けての打ち合わせが行われた。

②事業の主旨：「相互尊重・相互理解・相互扶助」を基調とする友愛理念の啓発は次世代を担う若者にこそ必要である。世界の融和を求めるとき、隔たりとなる要因の一つに言語があり、世界でも特殊な言語である日本語を理解できる人材の育成は、友愛理念の啓発に重要な要素といえる。友愛についての小論文を日本語で募り、優秀作品を表彰する。

③上記主旨にご理解をいただき、事業の実施が約束された。

*韓国の学期の関係で、実際の実施は2024年5月末となり、2024年度事業として実施することが理事会で承認された。

—— 実施 ——

2024年5月26日(日)～5月28日(火)

韓国・全州大学校において

鳩山由紀夫理事長による「友愛とは」の講演のほかに、今回新たに日韓の若者同志による話し合いの場を設け、同行した友愛ユニオンメンバーによるスピーチ、在校生とのテーブルディスカッションを行った。

参加者

- ・鳩山由紀夫 理事長
- ・鳩山 幸
- ・攪上哲夫（小論文コンテスト担当）理事
- ・井田安信 理事
- ・後藤大智 理事
- ・羽中田元美 事務局長
- ・友愛ユニオンメンバー（順不問）

橘 颯太郎・手塚七彩・小倉佑太・北島貴央・鈴木健太・已上小楽咲





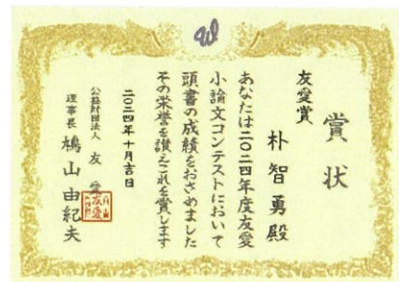
—— 表彰式 ——

2024年10月24日(木)
韓国・全州大学校において

韓国で行われた初めての「友愛小論文コンテスト（2024年5月26日(日)～5月28日(火)）」事業は、成功裡に終了した。「私にとって友愛とは」の小論文は8名の友愛選考委員会の厳選な審査を受け、8作品が表彰対象となり、受賞者が決まった。直接賞状を手渡したいとの思いから、多忙な時間をぬって鳩山由紀夫理事長自らが再度全州大学校を訪れ、学生達との交流のなか表彰式を挙行了た。

出席者

- ・鳩山由紀夫 理事長
- ・鳩山 幸
- ・攪上哲夫 理事（小論文コンテスト担当）
- ・芳賀大輔 理事
- ・戸澤英典 評議員
- ・羽中田元美 事務局長



審査結果

友愛賞	Park Jiyong	朴智勇	パクジヨン
2 位	Lim Hane	——	イム ハネ
3 位	Lee Songhyun	李松沄	イ・ソンヒョン
3 位	Lee Kunwoo	李乾祐	
3 位	Jong Bosung	鄭普丞	

入選	Lim minwook	林珉煜	
入選	Park Purunsan	——	パク プルンサン
入選	Kim Yehoon	金睿薰	
入選	Kim Jaeho	金材浩	キム ジェホ



全州大学校パク ジンペ総長



友愛賞 朴智勇さん



第2位 イム ハネさん



第3位 李松法さん



第3位 鄭普丞さん



入選 林珉煜さん



入選 金睿薰さん



入選 金材浩さん

2) 日本国内における事業実施／東京池袋／千代田国際語学院

- ①日本に在住し、日本語を学ぶ学生を対象に、「友愛小論文コンテスト」を実施し、友愛理念の普及、相互理解、国際交流の推進につなげることを目的とする。
- ②日本国内の実施については、第33回理事会（2024年3月22日開催）での承認となったため、具体的な実施は2024年度事業とする。

—— 実施内容 ——

2025年2月15日(土) 10:00～13:00

- ・ 鳩山由紀夫理事長による「友愛とは」講演
- ・ 友愛ユニオンメンバーによるスピーチ
- ・ 友愛ユニオンと千代田国際語学院卒業生（日本語が堪能）とのテーブルディスカッション

出席者

- ・ 鳩山由紀夫 理事長
- ・ 芳賀大輔 理事
- ・ 攪上哲夫 理事（小論文コンテスト担当）
- ・ 西川伸起 理事
- ・ 井田安信 理事
- ・ 後藤大智 理事
- ・ 羽中田元美 事務局長
- ・ 友愛ユニオンメンバー（順不問）
浦 彩人・小倉佑太・堆 美優・吉田大志・成田 葵・出倉正啓・北島貴央





—— 選考・表彰 ——

- ・寄せられた作品（9 点）を選考委員が採点
- ・2025 年 5 月の理事会承認を経て、表彰式実施予定

3、普及啓発活動

（定款 第 4 条 第 1 項 第(3)号に基づく事業）

事業概要

機関紙『友愛』の発行（隔月年 6 回）、ホームページでの活動状況の報告及び情報開示（法令で定められた情報開示を含む）を実施。

併せてリーフレット・書籍等の作成、配布及び友愛理念についてのレクチャー（講演・ビデオメッセージ）など行い、本財団の実施事業、実施目的などを広く伝達し、友愛理念の普及に努める。

これらを以て定款に定めるところの世界平和に資する事業として行う。

事業実施

（1）機関紙『友愛』の発行

- ・機関紙『友愛』は、6 回発行された。

2024 年（令和 6 年）度機関紙『友愛』発行履歴

2024 年 5 月（第 588 号） 3,000 部発行

▶2023 年度事業報告まとまる

70 周年記念総括

定款の一部変更実施・評議員会にて承認

理事・監事勉強会実施・公益法人法の一部改正を受けて

▶2023 年度 O E J A B 派遣員報告

新しい発見 新鮮な体験 見て聞いて 沢山勉強しました

- ・ウィーンでの共生社会と友愛思想 東京大学理学部 4 年 出倉正啓
- ・表裏一体の「技術」 東北大学大学院 2 年 大野誠尚
- ・世界を知った 10 日間 九州大学共創学部 3 年 三浦愛佳
- ・オーストリア社会から学ぶ対話のあり方 中央大学法学部 2 年 已上小楽咲
- ・安心して住める場所そして生き甲斐 千葉大学医学部 6 年 金子紗也佳
- ・個性を理解すること 北海道大学農学部 4 年 矢野由佳

2024 年 7 月（第 589 号） 3,000 部発行

▶第 8 回定時評議員会開催

2023 年度事業報告・計算書類承認 — 70 周年記念事業総括

新たに加わった評議員を交えて 事業担当理事から詳細な報告

▶2024 年度 友愛小論文コンテスト

韓国 全州大学校にて開催 友愛ユニオンメンバーも参加

初めての試み・若者同志のテーブルディスカッション実施

- ・相互理解のための一歩 橘 颯太郎
- ・人と人との繋がりに友愛の精神がある 小倉佑太
- ・私にとって友愛とは in 韓国 手塚七彩
- ・YOU（全州大学校生）& I（友愛メンバー）MAKE WE&WORLD.
鈴木健太
- ・容中律の世界で育まれる友愛精神 北島貴央
- ・Z 世代における日韓交流の在り方 已上小楽咲

▶2024 年度 O E J A B 派遣員募集スタート

2024 年 9 月（第 590 号） 3,000 部発行

▶O E J A B 派遣員 12 名来日

広島平和祈念公園にて献花・友愛勉強会・鳩山会館での講演会 多彩な日程の
14 日間

▶エヤップと友愛の新時代の始まり 理事 西川伸起

- ・友愛の輪 三浦愛佳

- ・人と人との繋がりが互いの国の印象に 田島桃子
- ・広島で育んだ「信頼の輪」 手塚七彩
- ・友愛とエヤップを通した人と人との繋がり 小倉佑太
- ・人を通して国を知る・OEJAB 学生との交流 藤田脩椰

2024 年 11 月（第 591 号） 3,000 部発行

- ▶第 37 回通常理事会開催
各事業進行状況など報告・活発な事業推進状況
2024 年度 OEJAB 派遣員承認
- ▶OEJAB 派遣員選考
初めての面接選考実施 11 名の応募者が次々と来所
- ▶韓国 全州大学校における「友愛小論文コンテスト」表彰式実施
鳩山由紀夫理事長から友愛賞賞金が贈られる
友愛賞受賞の朴智勇さんが受賞者を代表して挨拶
・友愛賞受賞作品 友愛と竹 朴 智勇

2025 年 1 月（第 592 号） 3,000 部発行

- ▶新春巻頭言
友愛の使命 理事長 鳩山由紀夫
- ▶2024 年度 OEJAB 派遣員
6 名の派遣員がそれぞれの「抱負と期待」を語る
ウィーン訪問を前に事前勉強会・友愛ユニオン勉強会・懇親会を終えて
・千葉大学医学部 5 年 岩岡 優太
・筑波大学人文・文化学群 4 年 須黒 正也
・東京大学文学部社会学専修 4 年 坪山 倫
・北海道大学大学院共同資源工学修士 2 年 佐々木 太一
・京都大学総合人間学部 3 年 尾田 夏野
・東京科学大学医学部 6 年 木島 優美
- ▶友愛ユニオン勉強会・懇親会 一笑顔あふれてー

2025 年 3 月（第 593 号） 3,000 部発行

- ▶第 38 回通常理事会開催
次年度事業概要を承認 各事業着実に歩みを進めて
小論文コンテスト・韓国延世大学校で開催・中国中央民族大学にて再開
友愛ユニオンの事業参加が増加 着実な次代への継承
- ▶「私にとって友愛とは」友愛小論文コンテスト 日本国内で初の実施
千代田国際語学院 池袋校にて開催
国際色豊かな在学生と友愛ユニオンメンバーでのテーブルディスカッション

テーマは「日本で感じたカルチャーショック」

- ・ 交流の出発点となる友愛／浦 彩人
- ・ 改めて知った中国の先進性／吉田大志
- ・ 身近な事柄の違いは ／ 出倉正啓
- ・ 対話を通して知った日本の新しい側面／成田 葵
- ・ 日中友好の一端を／堆 美優
- ・ 言葉の影響力／小倉佑太
- ・ 裏方の目線で／北島貴央

▶ 2024 年度 O E J A B 派遣員

元気に出発・期待に胸と鞆を膨らませて

3 月 1 日出発・3 月 10 日帰国

▶ 2025 年度 内閣府青年国際交流事業

心躍る様々な体験がまっています 挑戦のチャンスです！

▶ 資料室公開中

友愛の歴史と活動の資料が揃っています

◆ 送 付 先

会員・関係各位団体等 ： 1,400 箇所に郵送

また、関係各所にて配布を実施。

海外関係先へ送付、配布依頼（中国国際青年交流中心・北京理工大学等）。

（２）「友愛ユニオン勉強会」開催

国際交流事業の一環として実施している派遣事業（O E J A B・アジア・アフリカユースフェスティバル・一带一路世界大会等）の経験者で構成される「友愛ユニオンの会」が、開催された。この会は、国際交流事業及び普及啓発活動の一環として活動を行っており、友愛の事業についての普及宣伝・友愛の事業参加への誘いなどを発信している。派遣員としての自らの体験を基に、友愛の事業への取り組み、また友愛理解のための活動などを積極的に行っている。

当日は、各人が近況報告、今後の友愛活動についてなどを語り合い、情報交換と親睦を深めた。前回の派遣員は、既に社会人になっている者も混じる。鳩山由紀夫理事長を囲んで、楽しく有意義な時間を過ごした。

特別講演会

2024 年 12 月 14 日（土）15：30～17：00

於：友愛サロン

▶ 講師：大橋 毅 弁護士 （クルド難民弁護団事務局長）

クルド難民への排斥活動から見る日本における難民問題

▶出席者

- ・ 鳩山由紀夫（公益財団法人友愛 理事長）
- ・ 戸澤英典（評議員 東北大学教授）
- ・ 西川伸起（理事 OEJAB 受入・派遣事業担当）
- ・ 井田安信（理事 ミャンマー農業指導者育成事業担当）
- ・ 攪上哲夫（理事 小論文コンテスト事業担当）
- ・ 後藤大智（理事 2019年度友愛派遣員）
- ・ 2019年度派遣員 森崎桃子
- ・ 2020年度派遣員 浦 彩人
- ・ 2022年度派遣員 藤田脩椰・ニケライ ベッヘナーゼ・女鹿笑奈
- ・ 2023年度派遣員 出倉 正啓
- ・ 2024年度派遣員 岩岡優太・尾田夏野・木島優美・佐々木太一・須黒正也・坪山 倫



（3）「友愛ユニオン交流会」 開催

2024年12月14日（土）17：30～

於：友愛サロン

研修会・勉強会と共に、後に行われた懇親会の様子等を写真で綴った小冊子『One Day』を作り、参加者及び関係各位に配布した。



（４）ホームページの公開・更新

①ホームページは、随時更新されている。

・機関紙『友愛』発行時

機関紙『友愛』最新版掲載

主な記事の詳細 ⇒写真を多用し「見て解かる活動内容」として掲示

⇒寄せられた原稿を基に、臨場感ある報告記事

・OEJAB募集開始時 ⇒必要書類・詳細資料など、ダウンロードできる仕様

・その他、随時必要に応じて更新

②会員登録専用ページ設定 ⇒入会申込フォーム掲載

③問い合わせ専用フォーム掲載 ⇒メールでの問い合わせ投稿などに提供

④QRコード設定 ⇒機関紙『友愛』に掲載他、配布物などにも掲載



Ⅳ 業務執行

1、理事会開催

第34回 通常理事会

開催日：2024年 6月 5日（水）18時～

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告：経理・庶務関係業務及び対外提出・来状書類に関して

(1) 2024年4月定期会計諸表確認及び決算書作成／
小林広治先生

(2) 2022年度事業報告及び計算書類、内閣府の承認
報告あり（2024年5月末）

実施事業関連：・資産運用に関する現状報告

・友愛創立70周年記念事業

・ミャンマー農業指導者育成事業

・OEJABへの派遣・受入事業

・友愛小論文コンテスト事業

・2023年度事業報告及び2023年度計算書類(決算書)について

・2023年度事業報告及び2023年度計算書類(決算書) 監事報告

- ・「指定正味財産」の計上について
 - ・理事及び重要職員の賠償責任保険の加入について、
- 協 議 事 項：(1) 2023 年度事業報告
- (2) 「指定正味財産」の計上について
 - (3) 2023 年度計算書類（決算書）
 - (4) 定款第 31 条の一部変更による執行理事の選任
 - (5) 理事の賠償責任保険の加入について
 - (6) 特定資産の取り崩しについて
 - (7) 第 8 回定時評議員会の開催について

第 35 回 通常理事会

開催日：2024 年 7 月 26 日（金）18 時 30 分 ～

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告：経理・庶務関係業務及び対外提出・来状書類に関して

- ・ 2024 年 7 月 24 日定期会計処理指導／小林広治先生
- ・ 役員及び重要使用人に対する賠償保険の加入について／井田理事

実施事業関連：・ ミャンマー農業指導者育成事業
・ O E J A B への派遣・受入事業
・ 友愛小論文コンテスト事業

協 議 事 項：友愛インターン制度の導入について

第 36 回 通常理事会

開催日：2024 年 9 月 26 日（木）18 時 30 分 ～

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告：経理・庶務関係業務及び対外提出・来状書類に関して

- ・ 2024 年 9 月 11 日定期会計処理指導／小林広治先生
- ・ 4 階資料室、暗証番号鍵の取り付け

実施事業関連：・ ミャンマー農業指導者育成事業
・ 友愛小論文コンテスト事業
・ O E J A B への派遣・受入事業

協 議 事 項：(1) 2024 年度友愛小論文コンテストに対する選考員会の答申について

第 37 回 通常理事会

開催日：2024 年 11 月 7 日（木）18 時 ～

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告：経理・庶務関係業務及び対外提出・来状書類に関して

- ・2024 年 10 月、定期会計処理指導／小林広治先生
- ・4 階資料室、OEJAB 感謝状など展示
- ・公益財団法人法の改正にあたって

実施事業関連：・ミャンマー農業指導者育成事業

- ・友愛小論文コンテスト事業
- ・OEJAB への派遣事業について
- ・友愛ユニオン刷新について

協 議 事 項：(1) 2024 年度 OEJAB 学生派遣事業に対する選考委員会の答申について

第 38 回 通常理事会

開催日：2025 年 2 月 14 日（木）18 時 ～

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告：経理・庶務関係業務及び対外提出・来状書類に関して

- ・2025 年 1 月、定期会計処理指導／小林広治先生
- ・会計管理システムの新規作成と移行準備
- ・4 階資料室、茶室用の畳、電子レンジ、冷凍庫などの什器備品拡充

実施事業関連：・ミャンマー農業指導者育成事業

- ・友愛小論文コンテスト事業
- ・OEJAB への派遣事業
- ・友愛ユニオン刷新について

検 討 事 業：(1) 2025 年度事業計画概要の検討
(2) 予算作成に伴う事業内容の方針決定
(3) 2025 年度上半期の事業予定

協 議 事 項：(1) 友愛小論文コンテスト 韓国／延世大学校での事業実施に於いて、同行理事及び訪韓国友愛ユニオンメンバーの承認

第 39 回 通常理事会

開催日：2025 年 3 月 21 日（金）18 時～

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告：経理・庶務関係業務及び対外提出・来状書類に関して

実施事業関連：・ミャンマー農業指導者育成事業

・小論文コンテスト事業

・OEJAB への派遣事業

・2025 年度事業計画及び事業予算について

協 議 事 項：(1) 2025 年度事業計画書

(2) 2025 年度収支予算書

2、評議員会開催

第 8 回 定時評議員会

開催日：2024 年 6 月 22 日（土）11 時～

場 所：友愛サロン

議 事：業務執行報告：経理・庶務関係業務及び対外提出・来状書類に関して
代表理事および業務執行理事の職務執行報告

・国際交流事業 (1) OEJAB 派遣事業に関して

(2) OEJAB 受入事業に関して

(3) ミャンマー農業支援・農業指導者育成事業に関して

・表彰事業 (1) 小論文コンテストに関して

・普及啓発活動 (1) 創立 70 周年記念事業

(2) 機関紙「友愛」の発行

(3) 友愛ユニオン勉強会開催

(4) 友愛ユニオン交流会開催

(5) ホームページの公開・更新

・2023 年度計算書類 (案) より

(1) 費用の按分について

(2) 指定正味財産について

(3) 遊休財産・収支相償・事業比率について

・2023 年度監査報告

協議事項：(1) 2023 年度事業報告について

(2) 2023 年度計算書類について

3、運営委員会開催

下記日程・時間の通り、事業を担当する理事が集まり、事業の実施について話し合う会が開かれた。

それぞれの事業の現状報告・問題提起・今後の方針など情報を共有し、事業を実行推進していくための話し合いが行われた。

なお、「担当理事打ち合わせ会」は、「運営委員会」として取り扱われることが、第 20 回通常理事会（2022 年 3 月 26 日開催）において承認された。

【運営委員会メンバー】

芳賀大輔 理事／井田安信 理事／西川伸起 理事／攪上哲夫 理事／
羽中田元美 事務局長

【開催日・時間】

2024 年 5 月 10 日（金）14：00～16：00
2024 年 6 月 10 日（月）16：00～18：00
2024 年 7 月 19 日（金）19：00～21：00
2024 年 8 月 2 日（金）17：30～19：30
2024 年 9 月 18 日（水）18：00～20：00
2024 年 11 月 19 日（火）17：00～19：00
2024 年 12 月 10 日（火）17：30～19：30
2025 年 1 月 8 日（水）17：00～19：00
2025 年 2 月 6 日（木）16：00～18：00